

大学

企画課管理用 管 — A — 2

推進主体	学長室経営企画課
責任者	学長室部長

分類	実施計画	開始年度	完了年度	将来的な継続
管 — A	②FD・SDの一層の推進による教職員の能力向上プログラムの構築	令和 4 年度	令和 9 年度	あり(予定)

① 目的・内容

FDについて、ファカルティ・ディベロップメント推進委員会では、学長の諮問に基づき、全学的立場でFDを推進することを目的としているが、現状では、授業評価アンケートに関する内容を取り扱うのみであり、また、大学院に関するFDを扱うことは規定されていない。内部質保証を推進するうえでも、同委員会の役割は非常に重要であることから、同委員会の位置づけや役割を見直し、全学的にFDが推進されるよう改善する。また、全国私立大学FD連携フォーラムに加盟し、他大学との情報共有を図るとともに、立命館大学が運営している実践的FDプログラムを利用し、新任教員向けのFDプログラムを策定する。

SDについて、全学的にSDを推進する組織としてSD推進委員会を設置し、SDの実実施計画や推進を行うとともに、大学としてのSDに関する方針を策定し、大学ホームページで公表する。

② 到達目標(数値目標/定性目標) **※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。**

①新たなFD推進委員会及びSD推進委員会を令和5年4月1日より設置する。
 ②FD・SDプログラムの構築と推進を図る。
 ③全国私立大学FD連携フォーラムに加盟し、情報共有を図るとともに、立命館大学が運営している実践的FDプログラムを、本学のFDプログラムに取り入れる。

③ ロードマップ

年度	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
予定		委員会の設置・見直し					
			FD推進委員会、SD推進委員会の設置				
				FDの推進			
					SDの推進		
						実践的FDプログラムの利用開始	
						全国私立大学FD連携フォーラムへの加盟	

④ 数値目標の詳細 **※設定できない計画については記載不要。**

指標の名称		指標の定義(計算式/説明)					
1							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							
2							
	直近	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
目標							
実績							

⑤ 実施計画／実施報告		
年度	実施計画	実施報告／今後の課題
(2022年度) 令和4年度	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会の位置づけや役割を見直し、全学的立場でFDを推進する組織として機能するよう規程を改正する。 全学的にSDを推進する組織としてSD推進委員会を設置し、令和5年度以降の具体的な進め方を検討する。	全学的・組織的にFD・SDに取り組むための体制整備として、ファカルティ・ディベロップメント推進委員会を改組し、FD・SD推進委員会を設置することを提案し、令和4年11月14日開催の合同会議、令和4年11月17日開催の大学院委員会で承認された。また、全国私立大学FD連携フォーラムに加盟した。 FD・SD推進委員会規程では、これまで取り組みが不十分であった大学院固有のFD、社会貢献に関する研修、教員に対するSDも委員会の任務とすることで、全学的にFD・SDを促進する体制を整備した。 ★進捗段階:「実施展開」
(2023年度) 令和5年度	FD・SD推進委員会のもとで、本学に必要なFD・SDの具体的な計画検討に着手する。 具体的には、FDや大学職員・教員向けのSDの計画策定に取り組むとともに、大学基準上必要となる研修(TAに対するFDや大学院固有のFD)の実施に取り組む。	FD・SD推進委員会で、大学職員・教員向けのSDの計画策定に関する今後の進め方について、共有をおこなった。 また、令和5年4月11日にTA研修を実施し、約200名の大学院生が受講した。本研修を通して、TA業務に従事する際に気を付けることや、コミュニケーションスキル向上のための方法を学ぶことができた。 ★進捗段階:「実施展開」
(2024年度) 令和6年度	FD・SD推進委員会で策定した計画に取り組む。具体的には、第三期認証評価で付された提言への対応について、内部質保証委員会へ報告を行う。 また、令和5年度に実施したTA研修の内容にプレFDの要素を加えた研修を令和6年4月に実施予定である。	令和5年度に実施したTA研修の内容にプレFDの要素を加えた研修を令和6年4月に実施し、約200人の大学院生が受講した。また、本年度から全国私立大学FD連携フォーラムが主催している実践的FDプログラムの利用を開始し、教員2名が活用している。 SDについての「方針」の公表については、FD・SD推進委員会の組織改編に合わせて、大学HP「FD・SD推進」で、FD、SDを実施する目的や委員会の役割、これまでに実施した研修の概要等を掲載している。 ★進捗段階:「実施展開」
(2025年度) 令和7年度	令和7年度もTAに対して必要な研修を実施していくとともに、実践的FDプログラムの活用も継続する。 また、引き続き、教育活動及び大学運営に必要な能力・資質の向上を図るために、本学の教職員を対象に研修会等を実施する。	令和7年度は、令和6年度に引き続きプレFD要素を取り入れたTA研修を4月に実施し、約150名の大学院生が受講した。 また、令和7年度に実践的FDプログラム(全国私立大学FD連携フォーラム主催)を活用した教員は10名となり、教員の自主的な参加によるFDの機会拡充が進んでいる。 さらに、教員を対象としたSDの一環として、大学運営の方針および内部質保証に関する研修を4月に実施し、学長・副学長・各学部長・研究科長等が参加した。これらの取組により、FD・SDを通じた教育活動および大学運営に必要な能力・資質の向上に向けて、全学的な研修体制の整備と実施を引き続き推進した。 ★進捗段階:「実施展開」
(2026年度) 令和8年度	令和8年度も、プレFD要素を取り入れたTA研修の実施および全国私立大学FD連携フォーラム実践的FDプログラムの活用を継続し、教員・大学院生のFDの機会を確保する。 また、授業評価アンケートや自己点検・評価の結果等をFD・SD推進委員会で共有し、FD・SD研修の方向性等を全学的観点から検討する。 SDについても、大学運営や内部質保証に関する研修等を通じて、本学教職員の教育活動および大学運営に必要な能力・資質の向上を図る。これらの取組により、FD・SD推進委員会が教育活動・大学運営に関するFD・SDの中核組織として機能し、全学的内部質保証の枠組みの一部としての定着を目指す。	